

6月といえば「父の日」です。梅雨のないベルギーでも父の日はあります。6月の第3日曜日が父の日です。私自身が父親なので幼稚園でも父の日を大切にしています。で、誰が決めたかご存知ですか？これもやはり（と言うことは母の日を決めたのと同じ）アメリカの方でドッド婦人と言われていて、母の日があることを知った彼女は、男手ひとつで6人の子どもを育てた父に対して、父の生誕月6月に礼拝をしてもらったことがきっかけだと言われています。そして母の日があるのなら、父の日もあるべきだと提唱し、1919年頃にはこの運動が全米に広がっていたと言われています。しかし正式にアメリカで父の日を国民の祝日に制定されたのは1972年と、母の日が祝日に制定された1914年に比べると新しい祝日だと言えます。日本では1950年代から広まったようですが、母の日に比べるとまだまだ普及していないようです。さてこの父の日、冒頭に「6月の第3日曜日」と書きましたが、これはアメリカやフランス、オランダ、日本などの多くの国で定められています、他の日を定めている国もあります。例えばここベルギーでは6月の第2日曜日ですし、お隣のドイツでは6月5日と定められています。国が違えば習慣も違うなあと感心していると、何と母の日は父の日以上に多様化しています。日本やベルギーでは5月の第2日曜日とされていますがそれ以外の日を母の日に定めている国はたくさんあります。例えば1年で一番早い母の日はノルウェーの2月第2日曜日。イギリスやアイルランドは四旬節の第4日曜日（カーニバル後40日の最後の日曜日）、中東では春分の日を母の日と定めている国もあります。またフランスでは5月の最後の日曜日。ロシアでは何と11月の最後の日曜日となっています。そして地域差もあり、驚いたのはベルギーでは一般的に5月の第2日曜日とされていますが、アントワープやメッヘンでは8月15日とされています。もちろん街は他と同じように5月に母の日向けのセールがあるそうですが、この地域では伝統的に8月15日に母親に花を贈り感謝する習慣があるそうです。同じベルギーなんですけどねえ。

話が脱線しました。そう、父の日です。私たちの幼稚園では例年6月の第2、第3土曜日の2回に分けて父の日参観を行っています。日頃忙しいお父さんとゆっくりと楽しんでもらう日でもあります。当日は簡単な工作をして、それからお父さんと一緒にお昼御飯を作ってもらいます。年によってサンドイッチかおにぎりになります。お父さんと料理をする機会は家庭ではほとんどないようですが、この日はお父さんも気合を入れてお昼御飯を作ってくれます。実はサンドイッチもおにぎりも作ったことがないお父さんもいるのですが。ある年、父の日参観が近づくと、年長の女の子の元気がなくなってきました。その年はおにぎりを作る予定でした。その話をすると急に元気がなくなり、毎日憂鬱そうに登園してきました。「どうしたの」と話を聞いてあげると「うちのお父さんは料理をしたことがないの。だからおにぎりなんか絶対にできないと思うの。幼稚園でおにぎりができないとお父さんは恥ずかしいだろうなと思うと、とってもかわいそうだなって。そう思うと心配で心配で……。先生、お父さんがいやだって言ったら、その日お休みしてもいい？」と、その子の思いは深刻なものでした。内緒でお迎え時間にお母さんにその話を伝えました。するとお母さんも「うちの主人は料理なんか作ったことがないので、子どもが心配するのも当然ですわ。でもせっかくの父の日ですから、休ませないように考えてみます」と答えてくれました。そしていよいよ当日。心配で心配でその女の子は他の子どもたちのように騒ぐこともできずにいました。そしてとうとう運命のおにぎりの時間になりました。女の子の心配そうな顔を見ながら、お父さんはニコニコと微笑み、そして上手に三角おにぎりを次々に作っていきました。他のお父さんたちが苦戦しているのを横目に、今まで何度も何度もおにぎりを握ったような器用な手つきで、おにぎりを握っていきました。女の子の瞳はキラキラと輝き、満面の笑顔でお父さんの手先と顔を見ていました。その日にできたおにぎりの中で一番形が整っていたおにぎりができあがりしました。それから後の女の子のはしゃぎようは想像できると思います。ずっとお父さんに抱きつき、帰るときには肩車してもらって、その子にとっては最良の父の日になったと思いました。後日お母さんに話を聞いて驚きました。子どもがお父さんを心配していると聞いて、お父さんは毎日夜遅く帰ってきた後、ティッシュを使ってお母さんにおにぎりの握り方を習い、練習を続けていたそうです。そして前日の夜遅く、御飯を本当に握り納得いくまで復習していたそ

うです。そんな隠れたところの努力が、当日の女の子の最高の笑顔を生み出したのですね。話を聞いたこちらまで感動してしまいました。父性愛の1つの最高の表現だと思いました。この話を聞いて毎年、父の日の後、お母さんに前日までのお父さんの姿を聞いてみるようになりました。するとやはり多くのお父さんは普段料理をせず、料理をしないお父さんは当日のメニューを聞いてお母さんにアドバイスを求めているそうです。1週間前のお休みの日にサンドイッチパーティーと銘打って、お父さんが予行演習をしたという話も聞きました。そうして当日、子どもたちの心配を吹き飛ばし、上手にサンドイッチやおにぎりを作るお父さんの姿はいつまでも子どもたちの思い出になると信じています。

当日のメインイベントはみんなが歌う「お父さんの歌」だと思います。これは8年前に「おかあさんの歌はあるのに、どうしてお父さんの歌はないのかなあ」とお父さんの歌を調べたのですがなかなか見つかりません。それだったらいっそのこと作ってしまおうと思い、当時の園児たちにお父さんのイメージを話してもらい、それを元に作詞し、ギター伴奏を付けた簡単な曲です。これを参観日の最後に分のお父さんに向かって歌ってもらいます。一生懸命練習しお父さんに披露している子どもたちの姿を見て、目を潤ませているお父さんを見かけることもあります。昨年の父の日の後、突然7年前に卒園した園児のお父さんが幼稚園を尋ねてきてくれました。そして元園児からのビデオレターを見せてくださいました。その中で元園児がお父さんの歌を歌っている姿がありました。「今でもこの歌は思い出に残っていて大好きなのです。父の日でなくても時々家でうたってますよ」とそのお父さんは仰いました。うれしかったです。歌を覚えてくれたこともうれしかったのですが、その家族はたっぷりとお父さんの愛情を感じて生きているのだなと思うと本当にうれしくなりました。

お父さん、忙しいのは良く分かっています。でも会社のお付き合いを10%だけ減らして、自分の時間を20%だけ減らして、子どもたちにそして家族みんなにお父さんの愛情を降り注ぐ時間を増やしてみませんか。みんな、みんなお父さんが好きなのですから。

《つづく》